

日本教師教育学会 第36回 研究大会

大会テーマ

教師教育を担う者はいかに育つのか

大会プログラム



(広島大学広報室提供)

会期：2026年 9月 26 日（土）・9月 27 日（日）

会場：広島大学 東広島キャンパス

主催：日本教師教育学会

共催：広島大学教育学部

日本教師教育学会第36回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

日本教師教育学会第36回研究大会
大会実行委員会委員長 丸山恭司

日本教師教育学会第36回研究大会は、2026年9月26日（土）・9月27日（日）の両日にわたり広島大学東広島キャンパスにおいて開催されます。東広島キャンパスは、広島市内から少々離れておりますため、若干移動にご不便をおかけしますが、そのぶん、自然に囲まれた環境のなか、お集まりいただいた皆様の交流がいつそう深まりますようホスピタリティをもってお迎えする所存です。

本学教育学部は師範学校ならびに高等師範学校を前身とし、いまも就学前から大学院まで、あらゆる校種の教員の養成・研修に携わっております。日本教師教育学会の研究大会をお引き受けし、教師教育研究を専門とされる皆様に議論の場を提供できますことは本学の使命に叶うことであり、この機会を与えてくださいました会員の皆様には改めましてお礼申し上げます。

大会テーマは「教師教育を担う者はいかに育つか」に設定させていただきました。等閑視されてきた「教師教育者」の存在に光を当ててきたのはまさに本学会の貢献であると言えますが、教師教育者がどのように養成されるべきなのかについてはいまだ十分に議論が重ねられているとはいい難いでしょう。シンポジウムも同テーマを課題とし、さまざまな角度から追究いたします。本大会を通して教師教育を担う者の輪郭がより明確になることを願っています。

充実した大会でありました宇都宮大会にならい、広島大会も自由研究発表、総会、授賞式、情報交換会、シンポジウム、課題研究発表、ラウンドテーブル、若手交流企画、研究倫理学習会等、盛りだくさんの内容をご準備して皆様のお越しをお待ちしております。特に情報交換会では「日本の酒都西条」ならではのおもてなしを企画しておりますので、どうぞ期待してご参加ください。

大会プログラム 目次

大会テーマ	5
日本教師教育学会第36回研究大会要領	6
9月26日(土)大会 第1日	20
第1分科会	21
第2分科会	22
第3分科会	23
第4分科会	24
第5分科会	25
第6分科会	26
第7分科会	27
第8分科会	28
第9分科会	29
第10分科会	30
第11分科会	31
第12分科会	32
第13分科会	33
第14分科会	34
第15分科会	35
定期総会	36
受賞式	36
交流会	36
シンポジウム	37
9月27日(日)大会 第2日	38
第16分科会	39
第17分科会	40
第18分科会	41
第19分科会	42
第20分科会	43
第21分科会	44
第22分科会	45
第23分科会	46
第24分科会	47
第25分科会	48
第26分科会	49
第27分科会	50
第28分科会	51
第29分科会	52
第30分科会	53
英語による特設セッション	54

課題研究Ⅰ	55
課題研究Ⅱ	56
課題研究Ⅲ	57
若手研究者育成支援部.....	58
第6回研究倫理学習会.....	60
ラウンドテーブル.....	61
協賛企業広告.....	64

大会テーマ

教師教育を担う者はいかに育つのか

「教師教育者」という言葉が日本でも学会的な語彙として定着してから、すでに長い時間がたった。一方で、教師教育学会における教師教育研究は、主として「教師の育成」や「教師の成長」をめぐる議論を蓄積してきたものの、それらを担い、制度・実践・研究の接点に立つ教師教育者自身の育成と成長に関する検討は、依然として多くない。

本大会では、教師教育者の育成と成長を、「成長の視点」と「設計の視点」から捉え直したい。教師教育を論じ、教師の学びや専門性形成を問うことは、「教師を育てる者はいかに育つのか」「教師教育者自身の専門性はいかに形成され、更新されるのか」という問いへと回帰する。

そこで、大学・行政・学校という異なる場において教師教育を担う当事者の語りと、それらを相対化・接続する視点とを往還させながら、教師教育者の専門性形成を多面的に描き出す。教師教育を支える人的基盤の再検討を通して、教師教育の質保証と持続可能性を考える足場を築きたい。

日本教師教育学会第36回研究大会要領

1. 大会テーマ

教師教育を担う者はいかに育つのか

2. 会期

2026年9月26日（土）、9月27日（日）

3. 会場

広島大学東広島キャンパス教育学部（〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1）

4. 交通案内

大会会場の広島大学東広島キャンパスへお越しの方へ、公共交通機関・飛行機・自家用車でのアクセス方法をご案内します。

- 新幹線・電車・バスで来る方（最寄り：西条駅・東広島駅）
- 飛行機で来る方
- 自家用車で来る方

【重要】

事前参加申込者が例年よりも多く、大会期間中は混雑が予想されます。

[大会ホームページ開催概要の交通案内](#)（JR 西条駅経由・JR 東広島駅経由）をよくご確認ください。

とりわけ、JR 東広島駅経由については、JR 東広島駅から広島大学行きのバスが土日祝日に運休しております。大会期間中に JR 東広島駅を利用される方は、タクシーをご利用ください。タクシーにも限りがあるため、早目のご予約や乗り合わせ等、ご検討ください。

大会期間中（9/26、9/27）は、JR 西条駅経由をおすすめいたします。なお、混雑緩和のため、JR 西条駅経由の路線バスを9月26日・27日の8時台2便、18時台2便、増便しております。大会ホームページ開催概要の交通案内（[JR 西条駅経由の時刻表](#)）をよくご確認ください。

また、9月27日は広島大学内での別の大規模イベントが開催されております。朝は時間に余裕をもってお越しください。別のイベントが18時30分頃終了となっております。本研究大会のスケジュールの終了時刻は17時45分頃となっております。本研究大会のスケジュールの終了後は早めに帰路につかれることをおすすめいたします。自家用車でお越しの方は、[南ゲート](#)（ゲート3）からお帰りください。

新幹線・電車・バスをご利用の方

JR西条駅経由

区間	手段	所要時間
広島駅 → 西条駅	山陽本線	約40分
西条駅 → 広島大学（広大中央口・北口）	路線バス	約15分
西条駅 → 広島大学	タクシー	約15分

路線バス時刻表

[大会ホームページ開催概要の交通案内（JR西条駅経由）の時刻表](#)をご確認ください。

JR東広島駅経由

区間	手段	所要時間
広島駅→東広島駅	山陽新幹線	約11分
東広島駅→広島大学 ※土日祝日運休	路線バス	約15分
東広島駅 → 広島大学	タクシー	約15分

JR東広島駅から広島大学行きのバスは、土日祝日は運休しております。

大会期間中にJR東広島駅を利用される方は、タクシーをご利用ください。

タクシーにも限りがあるため、早目のご予約や乗り合わせ等、ご検討ください。

株式会社東広島交通配車室 TEL：0120-331260

有限会社 西条タクシー TEL：0120-212526（082-423-2525）

大学タクシー株式会社配車センター TEL：082-425-5000

双葉タクシー東広島営業所（株式会社エフ・ジー） TEL：082-421-0707

※JR東広島駅には、新幹線こだまと一部のひかりのみ停車します。

※大会期間中（9/26、9/27）は、JR西条駅経由をおすすめいたします。

飛行機をご利用の方

リムジンバス西条ルート

区間	手段	所要時間
広島空港 → 西条駅	リムジンバス	約25分
西条駅 → 広島大学（広大中央口・北口）	路線バス	約15分
西条駅 → 広島大学	タクシー	約15分

リムジンバス時刻表：広島空港のサイトをご確認ください。

リムジンバス白市ルート

区間	手段	所要時間
広島空港 → 白市駅	リムジンバス	約15分
白市駅 → 西条駅	山陽本線	約10分
西条駅 → 広島大学（広大中央口・北口）	路線バス	約15分
西条駅 → 広島大学	タクシー	約15分

リムジンバス時刻表：広島空港のサイトをご確認ください。

自家用車をご利用の方

自家用車をご利用の方は、大会期間中、大学構内（北第6駐車場）の駐車場を無料でご利用いただけます。

大阪方面からお越しの場合

出発IC	所要時間	距離
西条IC → 広島大学	約20～25分	約8km

九州方面からお越しの場合

出発IC	所要時間	距離
志和IC → 広島大学	約20～25分	約13km

5. 大会会場案内図



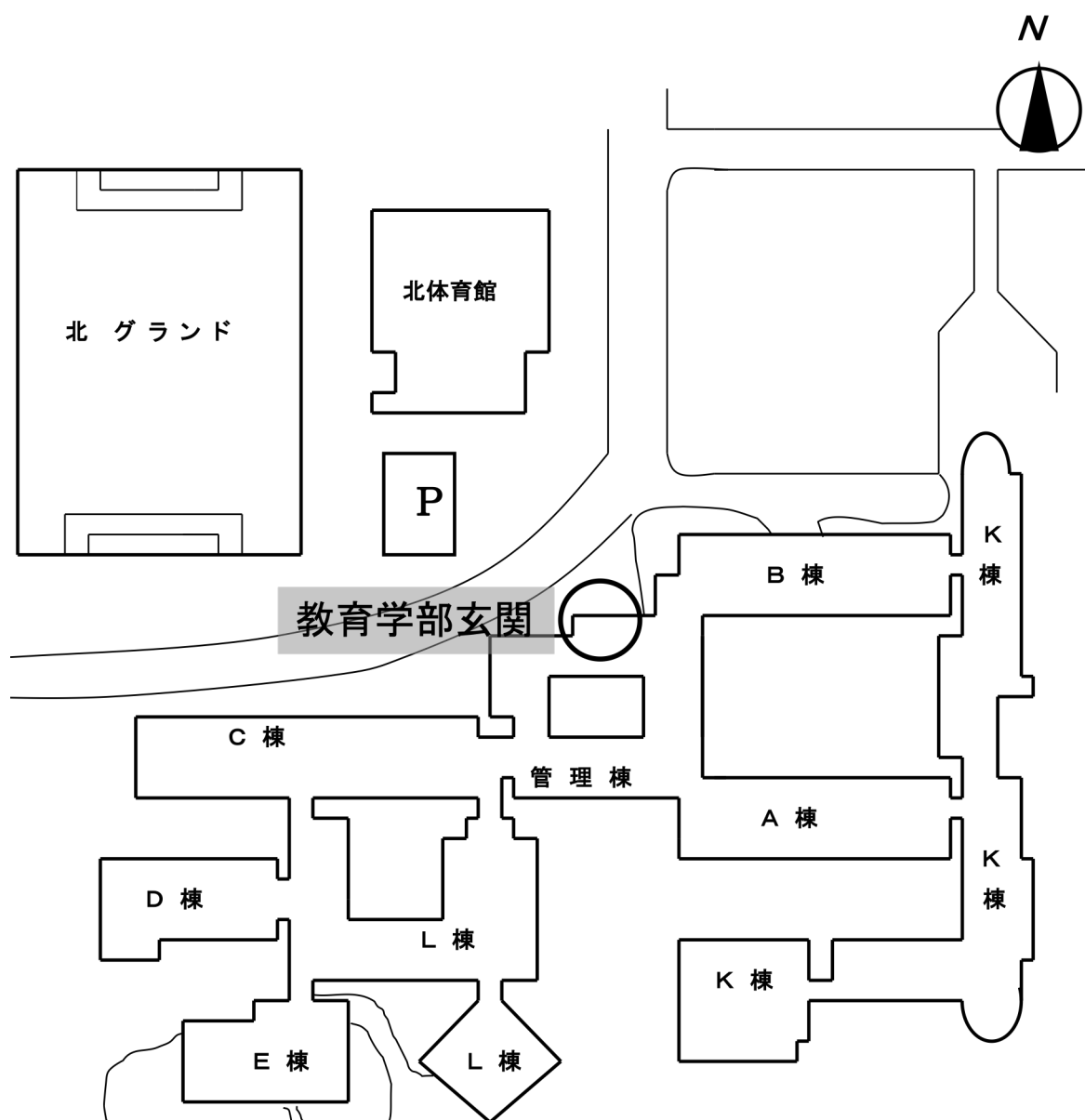
※広島大学東広島市キャンパスマップより作成

■キャンパスマップ

https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/higashihiroshima/map_higashihiroshima

■メイン会場

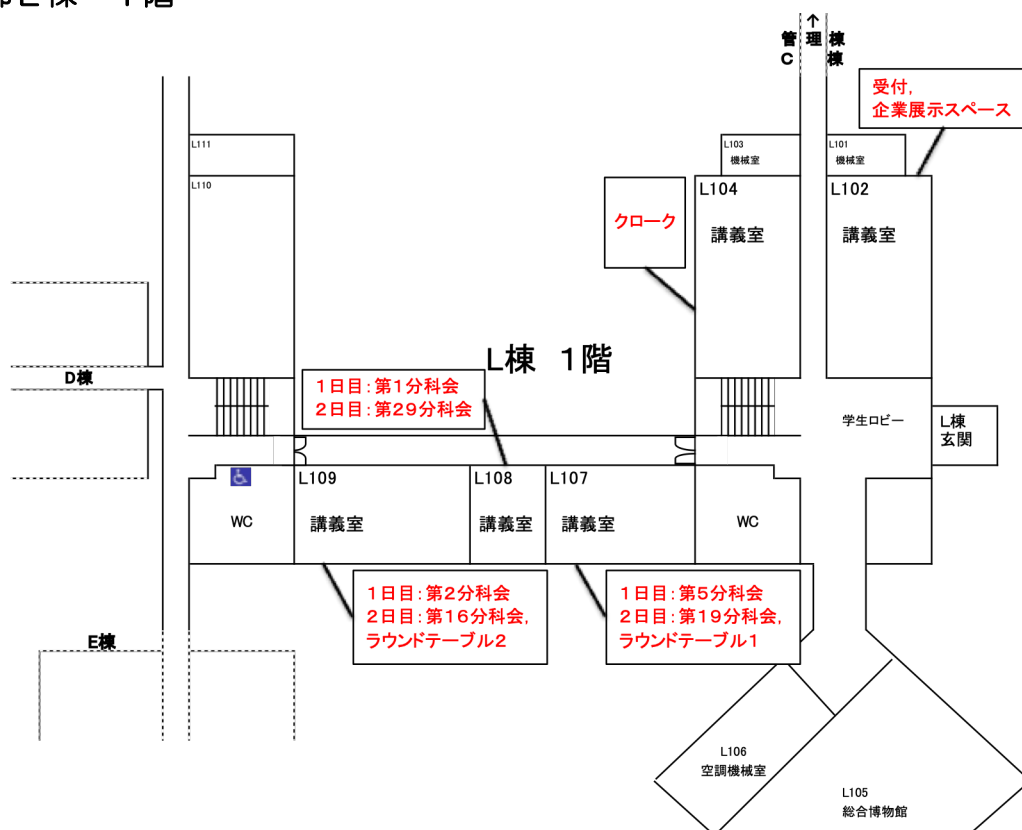
- 受付 教育学部L棟L102
- 分科会会場 教育学部L棟及びK棟
- 総会, シンポジウム 教育学部L棟L205
- 情報交換会 広島大学生協北第2食堂（北第2福利会館）
- 会期中, 大学構内では26日（土）のみ会館食堂（大学会館）（教育学部から徒歩15分）・北1コープショップ（北第1福利会館）が営業しております。27日（日）は食堂・売店の営業はしていません。会場と近隣の飲食店やスーパー, コンビニエンスストアまで距離がありますので, 昼食を事前に準備いただくことをおすすめいたします。



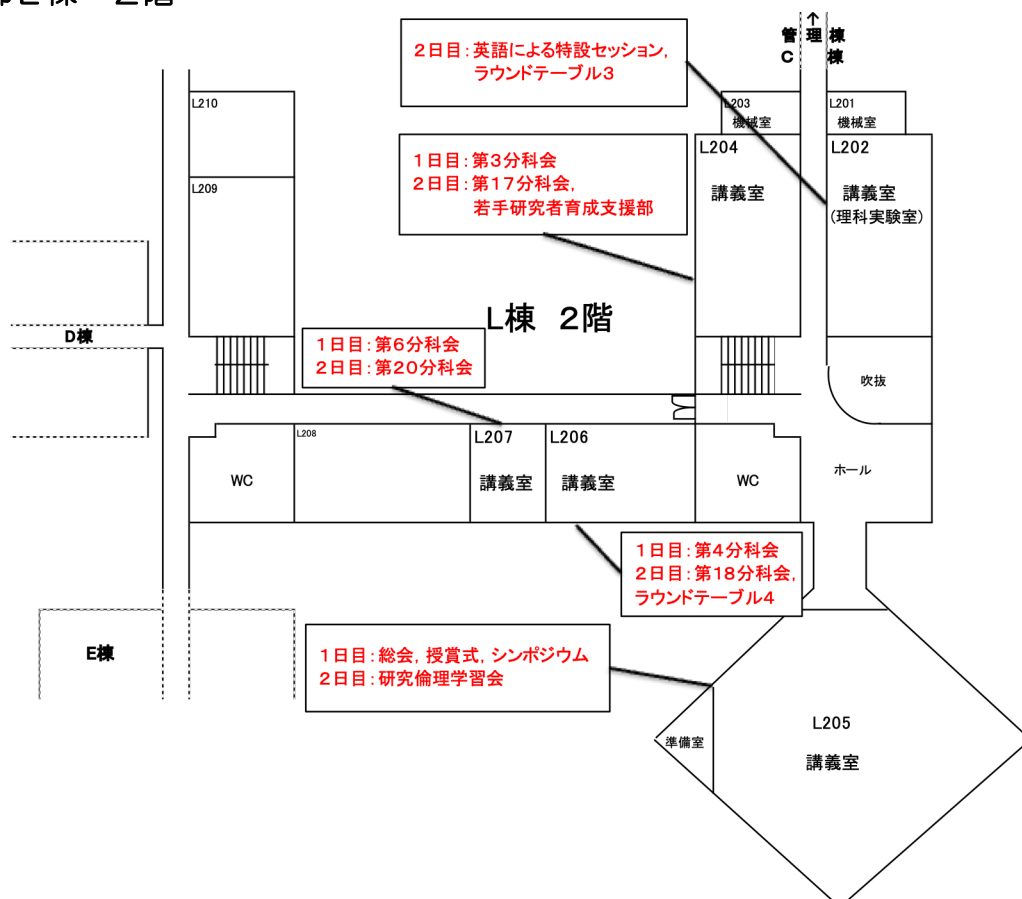
教育学部管理棟 1 階



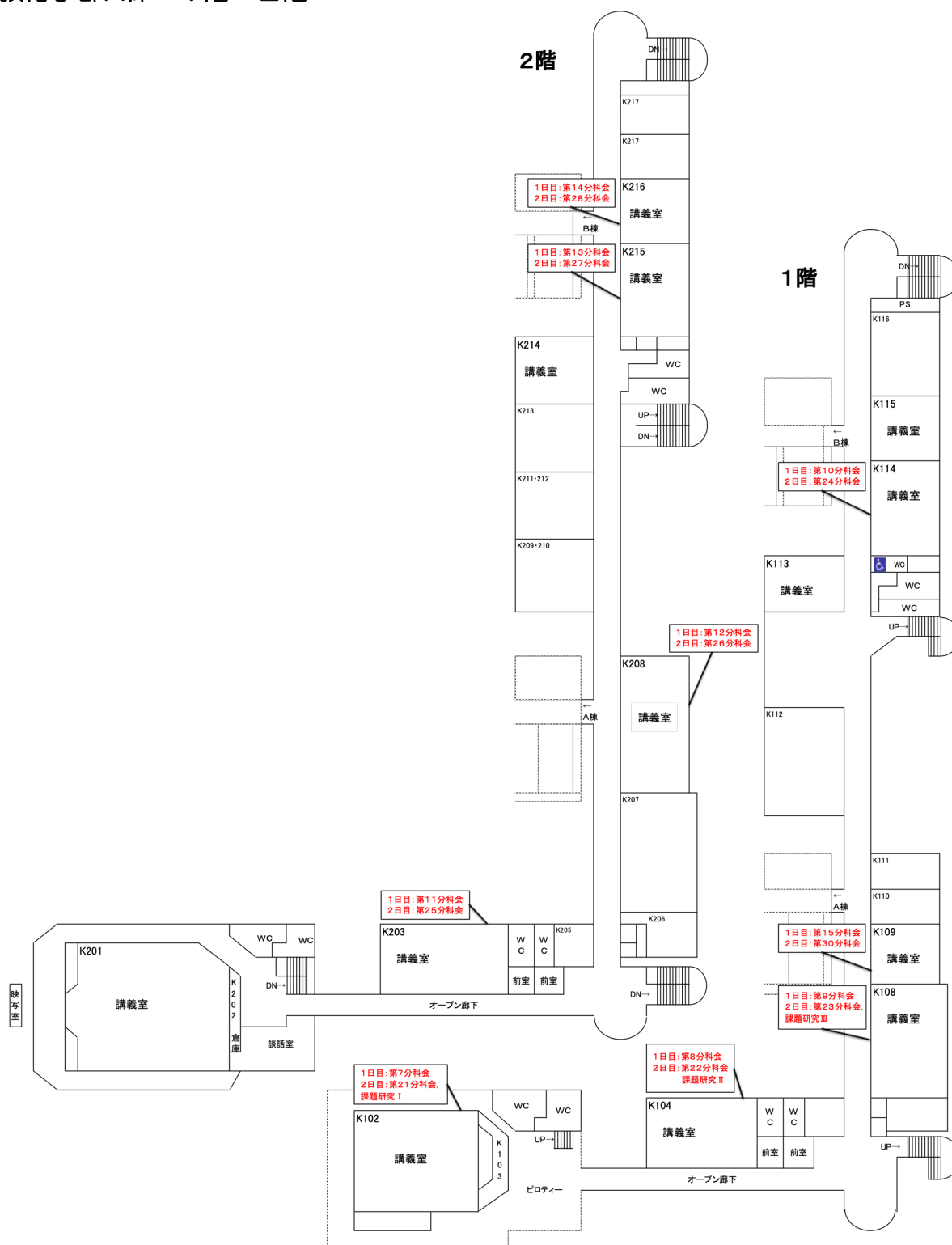
教育学部L棟 1階



教育学部L棟 2階



教育学部K棟 1階・2階



6. 日程

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
大会1日目 9月26日 (土)	8:30~ 受付 開始		9:30~12:00 自由研究発表		12:00~13:00 昼食	13:00~14:00 総会	14:00~14:35 授賞式 14:30~14:55 交流会		15:00~17:30 シンポジウム		17:45~19:45 情報交換会	
大会2日目 9月27日 (日)		9:00~ 受付 開始	9:30~12:00 自由研究発表 英語による特設セッション		12:00~13:00 昼食	13:00~16:00 課題研究Ⅰ・課題研究Ⅱ・課題研究Ⅲ			16:15~17:45 ラウンドテーブル・若手 研究者育成支援部・ 研究倫理学習会			

7. 大会参加方法、参加費

■ 事前参加申込（8月31日まで申し込みます）

- 【会員（仮会員）の方】 こちらから <https://members.jsste.jp/info.php>
(会員情報管理システムからのお申込みになります。会員価格になります。)
- 【非会員の方】 こちらから <https://conf.jsste.jp/36/application.php>

■ 参加資格

- 会員は、2026年度会費を8月31日（月）までに完納する必要があります。会員・非会員ともに参加費が必要になります。

■ 大会参加費

		正会員参加費	非会員参加費
事前申込の場合（対面）	一般	4,000円	5,000円
	学生	1,000円	3,000円
当日支払の場合（対面）	一般	5,000円	6,000円
	学生	2,000円	3,000円

- 会員の学生料金申請は、学会HP上の「会費納入方法について」ページ内の「会費学生料金申請」フォームから当該年度に有効な学生証のコピーを事務局に提出してください。
※学生証は毎年提出が必要となっております。昨年度提出していただいた会員の方も再度提出をお願いいたします。

■ 大会参加費事前入金方法

- 今年から事前申込にての大会参加費はオンライン決済でお支払いいただくことになりました。8月31日（月）までに上記の申し込みURLからお振り込みください。
期日までにお振り込みのない場合は、大会当日に「当日支払」の金額を受付にてお支払い頂くことになり、割高となります。

8. 自由研究発表について

- 自由研究発表の口頭発表者が1名の場合は30分（発表20分、質疑10分）、口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分、質疑15分）です。
- 発表取消があった場合は、以降の発表を繰り上げることはせず、その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
- 各分科会とも、発表と質疑の終了後、残り時間に応じて（最長で12時まで）全体討議を行います（発表者の少ない分科会は40分～1時間程度）。
- 発表者は、全体討議が終了するまで、分科会の会場に在席してください。やむを得ず事前に退席する際は、事前に司会者にその旨を伝えてください。
- 発表者と司会者は、分科会の開始10分前には発表会場に集合し、簡単な打ち合わせを行ってください。
- 分科会の発表では、次のように計時します。
 - ・ 個人発表及び口頭発表者が1名の共同発表の場合
1 鈴：15分 2 鈴：20分 3 鈴：30分
 - ・ 共同発表の場合
1 鈴：30分 2 鈴：35分 3 鈴：50分

9. 発表に係る機材について

- 全ての会場にプロジェクターとスクリーンを設置しています。「11. 分科会等会場一覧」でご確認ください。
- 各会場とも接続はHDMIです。
- 発表に必要なノートパソコンや、ケーブルとの接続に必要なアダプタ類は各自で持参ください。
- 動画再生をする場合は各自ご持参のノートパソコンよりお願いします。
- 分科会開始前に、必ず各自使用される機器との接続のチェックを行ってください。

10. 発表資料について

- 自由研究発表の発表資料等は、60部程度を各自でご用意いただき、当日の分科会開始10分前までに会場のスタッフに提出してください。
- 課題研究、ラウンドテーブル等の発表資料は、各自で必要部数をご用意のうえ、開始時に企画者が配布してください。
- 大会事務局では、発表資料等の追加の印刷はできかねます。また発表資料の事前送付も受け付けておりません。なにとぞご了承ください。

1 1. 分科会等会場一覧

教室名		9月26日（土）		9月27日（日）		
		9:30-12:00	13:00-17:30	9:30-12:00	13:00-16:00	16:15-17:45
L棟 1 階	L102	受付，企業展示				
	L104	クローク				
	L107	第 5 分科会		第 1 9 分科会		ラウンドテーブル 1
	L108	第 1 分科会		第 2 9 分科会		
	L109	第 2 分科会		第 1 6 分科会		ラウンドテーブル 2
L棟 2 階	L202			英語による 特設セッション		ラウンドテーブル 3
	L204	第 3 分科会		第 1 7 分科会		若手研究者育成支援部
	L205		総会，授賞式，シンポジウム			研究倫理学習会
	L206	第 4 分科会		第 1 8 分科会		ラウンドテーブル 4
	L207	第 6 分科会		第 2 0 分科会		
K棟 1 階	K102	第 7 分科会		第 2 1 分科会	課題研究Ⅰ	
	K104	第 8 分科会		第 2 2 分科会	課題研究Ⅱ	
	K108	第 9 分科会		第 2 3 分科会	課題研究Ⅲ	
	K109	第 1 5 分科会		第 3 0 分科会		
	K114	第 1 0 分科会		第 2 4 分科会		
K棟 2 階	K203	第 1 1 分科会		第 2 5 分科会		
	K208	第 1 2 分科会		第 2 6 分科会		
	K215	第 1 3 分科会		第 2 7 分科会		
	K216	第 1 4 分科会		第 2 8 分科会		
管理棟 2 階	第一会議室	大会実行委員会				
	第三会議室	会員控室，交流会				

1 2. 定期総会・授賞式

1日目の13:00～14:00に教育学部L棟L205教室にて定期総会を行います。会員の皆様の参加をお願いいたします。定期総会終了後に研究奨励賞の授賞式が予定されています。

1 3. シンポジウム

- テーマ：教師教育と授業教師教育を担う者はいかに育つのか
—教師教育者の成長とその設計—
- 日時 9月26日（土）15：00～17：30
- 場所 教育学部L棟L205教室
- 司会
岩田康之（東京学芸大学）
岡村美由規（広島大学）
- 登壇者
丸山恭司（広島大学）
横溝亮（横浜市教育委員会）
佐藤由佳（国分寺市第二小学校）
- コーディネーター
高谷哲也（鹿児島大学）

14. 英語による特設セッション

- 9月27日（日）9：30～12：00

15. 課題研究

- 9月27日（日）13：00～16：00
 - ・ 課題研究Ⅰ：実践研究を営む—教師教育の多様な当事者として—
 - ・ 課題研究Ⅱ：教師教育学の研究アプローチ
 - ・ 課題研究Ⅲ：「国際比較でみた〈教員不足〉問題の総括」

16. 若手研究者育成支援部研究倫理学習会

- 9月27日（日）16：15～17：45
若手研究者の葛藤を語り合う —その試行錯誤をコミュニティの知に

17. 研究倫理学習会

- 9月27日（日）16：15～17：45
教師教育研究の多様性と研究倫理

18. ラウンドテーブル

- 9月27日（日）16：15～17：45
 - ① 日本の教師教育の構造的転換を難しくしているのは何か—ジェンダーの視点から
 - ② 学校への障害の社会モデルの浸透に向けた教師教育の現状と課題
—インクルーシブな学校づくり研究会の取り組みから—
 - ③ 教師養成と子ども文化—そして遊べる教師がいなくなった⑪
～架け橋期のカリキュラム開発における大学教員の支援～
 - ④ 教師・教師教育者の専門性の探究：「セルフスタディ実践のひろば」研修会報告（2）

19. 交流会／情報交換会について

● 交流会

9月26日（土）の14:35～14:55（シンポジウム前）に、会員相互の情報交換と親睦を深めるための交流会の時間を設けております。会員控室である第三・第四会議室に茶菓子を準備しております。ご利用ください。

● 情報交換会

9月26日（土）17:45～19:45に会員相互の情報交換と親睦を深めるため、広島大学北2食堂ホールにて情報交換会を開催します。

情報交換会会場の食材手配のために事前申込を必須としております。

申込期限は、2026年9月6日となっております。

情報交換会会費につきましては教員等：6000円、大学院生・学部生：4000円となっております。なお、会場の収容定員に限りがありますので、申込期限までに収容定員を超えた場合には、申込を終了させていただくことがあります。

事前申込の方法につきましては、「日本教師教育学会第36回研究大会ホームページ 交通案内交流会・情報交換会について」（<https://36th.jsste.jp/overview>）をご確認ください。

※情報交換会会費は学会年会費と異なり、大学院生として所属があるもしくは本学会で学生会員として登録されていても、大学教員や学校教員等で兼職がある人については事前申込フォームで必ず「教員等」を選択していただき、学生料金は不可となっております。

※情報交換会会費は当日集金いたします。お釣りの無いようご準備いただくと幸いです。

20. 託児について

- 日本教師教育学会第36回研究大会の開催にあたって、託児サービスを行います。会員の利用は無料です。
- 託児予定先は確保してありますが、託児利用条件の詳細に関しては、申込者の有無および利用希望を確認してから託児予定先と話を詰めることになっています。
- 対象は、日本教師教育学会第36回研究大会に参加する日本教師教育学会会員・非会員の生後3カ月から小学校6年生までのお子さまです。なお、受け入れ定員に限りがありますので、申込期限までに定員を超えた場合には、申込を終了させていただくことがあります。
- 着替え、食事、おやつ、おむつなど、お子様に必要なものはすべてご持参いただくことになります。調理の必要なものはお預かりできません。
- 個人情報の取扱いについて。託児利用希望において提出していただいた個人情報は、適正に管理し、当該事業以外の目的に使用いたしません。提出された個人情報は、大会実行委員会及び託児業務を委託する予定の「株式会社くうねあ」と共有いたします。ご了承ください。
- 託児を希望する会員は、託児利用申込書に必要事項をご記入ください。必要事項を記入し、pdfあるいは画像データを添付して、以下の株式会社くうねあのメールアドレス（info.enfants@qoonea.com）まで送信してください。
- 申し込みの締め切りは、9/6（金）です。
- 申込者の希望を確認した上で託児予定先と託児利用条件の詳細について話を詰め、大会実行委員会から申込者に利用条件の詳細を改めてご連絡いたします。
- 非会員で託児を希望される大会参加者についても受入は可能です。ただし、非会員の利用にあたっては料金がかかりますので、事前に上記のメールアドレス（株式会社くうねあのメールアドレス（info.enfants@qoonea.com））にご連絡ください。
- 託児にあたっての相談、確認についても上記のメールアドレスにお問い合わせください。

9 月 26 日（土）大会 第 1 日

1. 自由研究発表
2. 定期総会（学会員のみ）
3. 交流会
4. シンポジウム

第1分科会

司会：牧貴愛（広島大学）

9:30~10:00

学級経営における教師と児童との心理的距離に関する研究
—教師の認識形成過程に着目して—

○松本浩司（広島県立広島北特別支援学校）

10:00~10:30

教科による授業参加構造の差異に関する探索的研究
—小学校1年生の授業におけるコミュニケーション中心性分析—

○中島寿宏（北海道教育大学）

久保研二（広島大学）

10:30~11:00

数学教育における統計分野の歴史的展開「探究」における数学の役割を手掛かりに

○大嶋康裕（崇城大学）

岩本晃代（崇城大学）

原北祥悟（崇城大学）

松島拓路（熊本大学大学院／崇城大学）

11:00~11:30

指導主事の専門性形成に関する質的研究
—授業研究への関わりに着目して—

○吉岡拓也（学習院大学大学院）

11:30~12:00

全体討議

第2分科会

司会：勝野正章（東京大学）

9：30～10：00

学びの多様化学校における教師の在り方

○梶原佑心（福岡教育大学）

10：00～10：30

政策文書からみた教師像の「不易」と「流行」

○臧俐（東海大学）

10：30～11：00

教師教育の「心理主義化」に関する理論的考察：

F.コルトハーヘンのリアリスティック・アプローチの分析を通して

○三品陽平（愛知県立芸術大学）

長谷川哲也（岐阜大学）

11：00～11：30

SDGs時代の教師教育の再設計について

－ESD・SDGsプロジェクトの省察からの提言－

○梅澤収（静岡大学）

11：30～12：00

全体討議

第3分科会

司会：伊藤真（広島大学）

9:30~10:00

—発表辞退—

※発表時間の繰り上げは行いません

10:00~10:30

戦後教員養成における「教職科目」のあり方に関する歴史的研究—1950年代後半から60年代前半の改革諸案の分析から—

○久恒拓也（新見公立大学）

10:30~11:00

ナチス期の教員養成大学における農村学校実習に関する研究

○藤井利紀（岡崎短期大学）

11:00~11:30

「教師の学び」に関する学習論的考察—専門職の学習に着目して

○朝倉雅史（筑波大学）

11:30~12:00

全体討議

第4分科会

司会：鹿毛雅治（慶應義塾大学）

9:30~10:00

大学の教職課程における模擬授業での他教科の視点の導入
—高等学校数学科に焦点をあてて—

○吉川千賀子（東京学芸大学教職大学院）

10:00~10:30

アート活動は、探究型授業の実践化を導くか：教職志望学生を対象とした実践研究

○羽野ゆつ子(大阪成蹊大学)

井藤元（東京理科大学）

山崎宣次（神戸女子大学）

紅林伸幸（常葉大学）

10:30~11:00

教職大学院生の学びに関するスコーピングレビュー

○馬越夕椰（呉工業高等専門学校 / 広島大学大学院）

11:00~11:30

教職志望学生の強みの自己理解を促すワークショッププログラムの開発と実践

○後小路正人（松本大学）

11:30~12:00

全体討議

第5分科会

司会：吉岡真佐樹（京都府立大学）

9:30~10:00

我が国における教育実習をめぐる政策動向の検討

○小田夏未（広島大学大学院）

米沢 崇（広島大学）

北山佳恵（島根県立大学）

10:00~10:30

小学校教員経験を基盤としたPST（小学校教員養成）ルームの運営の研究

○高橋正英（立命館大学）

10:30~11:20

開放制大学における教員免許状取得希望学生への支援を目的とした調査結果の報告

○藤平敦（日本大学）

○牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

○篠原 清夫（三育学院大学）

11:20~12:00

全体討議

第6分科会

司会：高旗浩志（岡山大学）

9：30～10：00

校務DXの実践的理解と生成AI活用力を育む教職課程授業の開発と評価
—架空学校構築モデルを用いた授業実践を通して—

○後藤壮史（大阪大谷大学）

10：00～10：30

北海道教育大学釧路校における酪農家民泊体験を通じた地域体験学習に関する理解の深化
—教員養成課程における「『越境』的な学び」の実現を目指して—

○宮前耕史（北海道教育大学）

半澤礼之（北海道教育大学）

10：30～11：00

児童の自律的な学びを支援する教師の育成
—自己調整学習理論に基づく小学校英語教職科目の構想と実践—

○西田寛子（中国学園大学）

11：00～11：30

教員養成プログラムでの経験はどのように「学び続ける教師」の育成に寄与するのか：
カンボジアの教員養成大学学生へのサーベイ調査から

○荻巣崇世（東京大学）

11：30～12：00

全体討議

第7分科会

司会：長谷川哲也（岐阜大学）

9:30~10:00

一般大学・学部で教員免許を取得した大学生の語りからみる教職課程での学習の意味

○今村健大（東京大学大学院）

10:00~10:30

教員養成における不登校児童生徒を対象とした支援プログラムの構築

○松岡敬興（近畿大学）

10:30~11:00

教師観形成の個体史研究—教育実習日誌にみる教師観の形成—

○向本翔馬（福岡教育大学）

11:00~11:30

教育実習における不安の意味づけの変容

○富江宏（大和大学）

11:30~12:00

全体討議

第8分科会

司会：黒田友紀（日本大学）

9：30～10：00

現職教員はどのような学びの場を求めるのかー奈良県国語教育研究会を事例に

○篠原嶺（奈良教育大学附属中学校）

10：00～10：30

玉川大学大学院でのファシリテーター養成の取り組み

ー指導と支導ができるファシリティーチャーを目指してー

○工藤亘（玉川大学）

10：30～11：00

台湾におけるProfessional Learning Networks (PLNs) の特徴：嘉義県と屏東県の事例から

○宮橋小百合（和歌山大学）

廣瀬真琴（鹿児島大学）

11：00～11：30

Instructional Roundsの 継続的な実施の成果と課題

○廣瀬真琴（鹿児島大学）

木原俊行（四天王寺大学）

森久佳（京都女子大学）

宮橋小百合（和歌山大学）

11：30～12：00

全体討議

第9分科会

司会：百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

9:30~10:00

教職員間のコミュニケーションが働きがい・働きやすさに及ぼす影響に関する実践的研究
—事例校（小学校）における職員研修開発を通して—

○野口貴史（栃木県栃木市立栃木中央小学校）

小野瀬善行（宇都宮大学）

10:00~10:30

教師の中核的な授業スタイルを規定する要素
—個人的側面と環境的側面の観点から—

○藤朱里（長崎大学）

10:30~11:20

在学時の海外研修が教師の「観」に与える影響（1）
—研修直後と現在の自分のリフレクションとを比較して—

○倉持祐二（京都橘大学）

○森脇健夫（武庫川女子大学）

○前田賢次（北海道教育大学）

○相原総一郎（京都橘大学）

11:20~12:00

全体討議

第10分科会

司会：深谷達史（広島大学）

9：30～10：00

数学的問題設定を基盤とした授業研究会が教師の教授学的知識の再構成に与える影響

○佐藤寿仁（岩手大学）

10：00～10：30

探究的カリキュラムマネジメントを通じた教師の成長と教師の魅力の再定義

～3校の実践を通じた教師教育者としての主体性形成プロセスに焦点づけて～

○谷口康代（静岡市教育委員会）

10：30～11：20

実習指導における学校ベースの教師教育者（SBTE）の省察プロセス

－教師と教師教育者の役割往還に着目して－

○深見智一（北海道教育大学）

○宮崎 充治（弘前大学）

11：20～12：00

全体討議

第11分科会

司会：八田幸恵（大阪教育大学）

9：30～10：00

小学校教員のアーティキュレーション・ワーク

○高嶋 江（尚絅大学）

10：00～10：30

小学校セカンドキャリア教員の専門的発達の特異性：教職観の変容に着目して

○三島泰樹（神戸大学）

10：30～11：20

教師教育者の授業観の変容におけるクリティカルフレンドの役割

○梶井 大輔（大谷大学）

○柳川 公三子（金沢星稜大学）

11：20～12：00

全体討議

第12分科会

司会：矢野博之（大妻女子大学）

9:30~10:00

学びの多様化学校の教師の葛藤経験

○佐々木龍平（別府大学）

10:00~10:30

へき地・小規模校における教育実習指導を通じた教育実習指導教員の変容のプロセス
—小学校教員へのインタビュー記録の質的分析—

○星裕（北海道教育大学）

田中雅子（北海道教育大学）

半澤礼之（北海道教育大学）

浅井継悟（北海道教育大学）

10:30~11:20

探究的な学びを支える授業研究コミュニティの形成と教師の変容

○谷地元直樹（北海道教育大学）

○佐藤寿仁（岩手大学）

11:20~12:00

全体討議

第13分科会

司会：渡辺貴裕（東京学芸大学）

9:30~10:00

教師の成長を促進する実践共同体の形成

—A 中学校における一教員の定期授業公開と授業見学の積極的発信の取り組みを通して—

○玉木健悟（川西町三宅町式下中学校組合立式下中学校）

10:00~10:30

教職課程についての点検・評価に関する現状と課題

○橋本勝（静岡県立大学）

10:30~11:20

特別支援教育コーディネーターを自らのキャリア形成に位置付けることを目指した教職大学院の授業実践

—キャリアマップ作成プロセスの共有を通して—

○尾崎承子（宇都宮大学）

○齋藤由江（宇都宮大学教職大学院）

○吉新智哉（宇都宮大学教職大学院）

○山崎雅記（宇都宮大学教職大学院）

○下田夏実（宇都宮大学教職大学院）

○芳賀優弥（宇都宮大学教職大学院）

○小野瀬善行（宇都宮大学）

11:20~12:00

全体討議

第14分科会

司会：佐藤仁（福岡大学）

9:30~10:00

教師のウェルビーイングは誰が支えるのか

—TALIS 2024 を用いた東アジア諸地域における教師負担と学校組織条件の比較分析—

○万奕（広島大学）

10:00~10:30

「グローバル教育」実践者育成を目的とする授業実践と評価（3）

—初等教育課程学生のグローバル教育実践に関する意識調査をもとに—

○笠井正隆（関西外国語大学）

森田健宏（関西外国語大学）

10:30~11:20

教員は副業に何を求めるのか：実態調査と聴き取り調査の分析から

○加藤一晃（名古屋芸術大学）

○坂本建一郎（大阪公立大学大学院）

伊井義人（大阪公立大学）

元木廉（越谷保育専門学校）

11:20~12:00

全体討議

第15分科会

司会：曾余田浩史（広島大学）

9:30～10:00

教員の役割葛藤とアイデンティティの再構成
—生存戦略としての調整プロセスと専門性のゆくえ—

○福重茜（神奈川県立相模田名高校）

10:00～10:30

同僚性構築についての研究
～若手教員の意識に着目して～

○小林玲央（福岡教育大学教職大学院）

10:30～11:00

大人も子どもも学び続けられる学びの場づくり
—教員のサードプレイスに着目して—

○一ノ瀬里紗（帝塚山大学）

11:00～11:30

教員養成制度と教職課程コアカリキュラムにおける教育学の役割
—教員養成の実学志向への一考—

○鶴田百々（中村学園大学）

11:30～12:00

全体討議

定期総会

日 時： 2026年9月26日（土） 13：00～14：00

9月26日(土)13:00～より定期総会を行います。会場は教育学部L棟L205です。会員の皆様の参加をお願い致します。

授賞式

日 時： 2026年9月26日（土） 14：00～14：30

定期総会後に研究奨励賞の授賞式を行います。会場は教育学部L棟L205です。会員の皆様は、定期総会終了後に引き続きご参加をお願い致します。

交流会

日 時： 2026年9月26日（土） 14：35～14：55

9月26日(土)の14:35～15:55（授賞式後）に、会員相互の情報交換と親睦を深めるための交流会の時間を設けております。会員控室である教育学部管理棟2階第三・第四会議室に茶菓子を準備しております。ご利用ください。

シンポジウム

教師教育を担う者はいかに育つのか —教師教育者の成長とその設計—

【趣 旨】

「教師教育者」という言葉が用いられるようになってから、すでに長い。一方で、教師教育学会における教師教育研究は、主として「教師の育成」や「教師の成長」をめぐる議論が蓄積されてきたものの、それらの議論を担い、制度・実践・研究の交差点に立つ教師教育者の育成と成長に関する検討は、依然として少ない。

本来、この学会において教師教育者をめぐる議論は再帰的である。なぜなら教師教育を論じ、教師の学びやその専門性形成を問うことは、必然的に「私は教師を育てる者としていかに育ってきたのか」「教師教育者自身の専門性はいかに形成され、更新されるのか」という問いへと回帰してくるからである。しかしながら、教師教育者の成長過程や実践知の育成のしくみ、さらにはそれらの理論化は、研究としても実践としても十分に議論され共有されているとは言い難い。

本シンポジウムは、教師教育者の育成と成長を、次の二つの視点から捉え直すことを目的とする。第一に、教師教育者はどのように育ち、いかなる経験や関係性を通して成長するのかという「成長の視点」。第二に、教師教育者の育成をどのように設計し得るのか、どのような育成のアイデアや仕掛けがあるのかという「設計の視点」。これらを通して、教師教育を語る私たち自身が、いま何を課題として捉え、どのように関与しようとしているのかを再帰的な視点を含めて検討する。

加えて本シンポジウムでは、教師教育者を大学・行政・学校という異なる場において教師教育を担う当事者の語りと、それを相対化・接続する解説者の視点とを往還させながら、教師教育者の専門性形成を多面的に描き出す。教師教育を支える人的基盤の再検討は、教師教育の質保証や持続可能性を考えるうえでも避けて通れない。会員・非会員の参加者とともに、教師教育者の育成をめぐる論点を可視化し、今後の研究と実践の協働に向けた足場を築きたい。

日時 9月26日（土）15:00～17:30

会場 教育学部L棟L205

司会

- ・岩田康之（東京学芸大学）
- ・岡村美由規（広島大学）

登壇者

- ・丸山恭司（広島大学）
- ・横溝亮（横浜市教育委員会）
- ・佐藤由佳（国分寺市第二小学校）

コーディネーター

- ・高谷哲也（鹿児島大学）

9 月 27 日（日）大会 第2日

1. 自由研究発表
2. 課題研究Ⅰ
3. 課題研究Ⅱ
4. 課題研究Ⅲ
5. 英語による特設セッション
6. 若手研究者育成支援部
7. 研究倫理学習会
8. ラウンドテーブル

第16分科会

司会：南浦涼介（広島大学）

9：30～10：00

CPLが成立する教師コミュニティの構築

○重岡千真（福岡教育大学）

10：00～10：30

エビデンスを基盤とする教育政策ディスコース：EBPMと脱文脈化の問題

○百合田真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

10：30～11：00

5年一貫看護師課程を担う高等学校看護教員の養成基盤に関する研究

—教員配置と養成機関の現状分析—

○竹原春花（福岡大学大学院）

11：00～11：30

中学校における異動者の組織再社会化への具体的手立て

○山崎雅記（宇都宮大学）

11：30～12：00

全体討議

第17分科会

司会：牛渡淳（仙台白百合女子大学）

9：30～10：00

小学校教員の初任者研修制度の形成に関する研究
～小学校初任者＝学級担任という構造に着目して

○小林大介（清川村議会・LCA 国際小学校）

10：00～10：30

教師の省察研究における M.フーコーの思想の意義の検討：
フーコーの思想に基づく教師・省察研究の概観を通して

○茂見剛（尚絅大学）

10：30～11：00

探究的な学びを伴走支援する教師の専門性開発
－形成的介入による校内研修変革の試み

○朝倉恵（関西大学大学院）

11：00～11：30

中央教育審議会養護教諭・栄養教諭作業部会にみる教職課程見直しの動向

○伊藤智代（名寄市立大学）

11：30～12：00

全体討議

第18分科会

司会：浅野信彦（文教大学）

9：30～10：00

教師の実践継続を支える／揺るがす「精神的報酬」：
離職と継続を分岐させるナラティブの縦断的分析

○小田郁予（都留文科大学）

10：00～10：30

保護者対応が校務に影響を与えるプロセス
—M-GTAを用いた公立小学校教職員の語りの分析から—

○與儀浩士（無所属）

10：30～11：20

教職大学院におけるワークディスカッションの実践 —子ども理解が立ち上がるプロセス

○神崎真実（京都教育大学）

○西村佐彩子（京都教育大学）

野々山康弘（京都教育大学附属京都小中学校）

石井大記（京都教育大学）

秋山雅文（京都教育大学附属桃山中学校）

木村進哉（京都教育大学附属特別支援学校）

11：20～12：00

全体討議

第19分科会

司会：久保富三夫（和歌山大学（名誉））

9：30～10：00

防災ゲーム体験後の教職課程学生による授業設計の特徴

ー「ダイレクトロード『初めての町』」を教材とした発問構成に着目してー

○藤原靖浩（関西福祉科学大学）

10：00～10：30

「多様性の包摂を志向する教員」養成のためのカリキュラム開発

○金井香里（武蔵大学）

10：30～11：00

アイスランドにおけるセルフスタディの導入・土着化とその可能性

○齋藤眞宏（旭川市立大学）

11：00～11：30

『私立学校教員の研修保障という課題ー放置を好機にするためにー』

○谷口毅（神戸大学）

11：30～12：00

全体討議

第20分科会

司会：金馬国晴（横浜国立大学）

9：30～10：00

国立大学の教員養成課程における学生の出身地域の多様性

○小竹礼峻（名古屋大学大学院）

10：00～10：30

小学校長は英国の小学校で何を学び、どのように学校を変えようとしたか

○木原俊行（四天王寺大学）

10：30～11：00

実行機能の個性に対する認識が教育実習における自己評価に及ぼす影響(2)

－ 教育実習期間を通した変化 －

○ 田爪宏二（京都教育大学）

森田健宏（関西外国語大学）

11：00～12：00

全体討議

第21分科会

司会：村井大介（静岡大学）

9：30～10：00

TNAによる研修ニーズの可視化と組織的公正性への示唆

○香川奈緒美（島根大学）

前田菜摘（大分大学）

和田真季（鹿児島大学）

10：00～10：30

栄養教諭が前面に出ない授業の教材研究を想定した研修

—令和7年度沖縄県栄養教諭研修会での「給食の教材化」—

○吉田安規良（北海道教育大学）

10：30～11：20

教師の専門職性を探究する教員研修プログラムに関する研究

—フロムの「持つこと／あること」とエンパワメント四象限モデルに基づく研修開発と評価—

○飯干新（広島県教育委員会）

○森久佳（京都女子大学）

○李愛慶（明治学院大学）

11：20～12：00

全体討議

第22分科会

司会：岡村美由規（広島大学）

9：30～10：00

養成大学は初任教員の省察をどのように支えうるか：
卒業研究の知見の再解釈を手がかりに

○吉田重和（新潟医療福祉大学）

10：00～10：30

新卒小学校教員への3か月間の支援
ーコーチングの手法を用いてー

○神原一之（武庫川女子大学）

10：30～11：20

自己を受容し、自己効力感を高める指導法の開発

○石橋昌雄（前立正大学）

○大高 幸一郎（東京都立川市立第六小学校）

○大道雅士（東京都世田谷区立塚戸小学校）

○村上智子（東京都立川市立大山小学校）

11：20～12：00

全体討議

9月27日（日）9：30～12：00

K108 教室

第23分科会

司会：奥田修史（盛岡大学）

9：30～10：00

オンライン授業公開によるフィードバックを通じた教師の授業観の変容と専門的成長

○河合甫（広島大学）

久保研二（広島大学）

中島寿宏（北海道教育大学）

10：00～10：30

探究的な学びを支える教師の役割に関する一考察

ー学習者との関係性を手がかりとしてー

○森田育志（大阪公立大学）

10：30～11：00

学校文化への信頼が揺らぐ時代の教師教育

ー協働探究ラウンドテーブルの実践から見えてきたことー

○鮫島京一（福井大学）

11：00～11：30

探究的な学びを支える教師の見取り・支援判断の力量形成に関する研究

ーブレンディッド・ラーニング型研修の実践を通してー

○福永徹（和歌山大学）

11：30～12：00

全体討議

9月27日（日）9：30～12：00

K114 教室

第24分科会

司会：樋口直宏（筑波大学）

9：30～10：00

近年の英語教育の変化の中での中学校英語教師の言語教師認知に関する研究

○田所貴大（宇都宮大学）

10：00～10：30

小学校教師における生成AIの位置付けに関する探索的検討

ーAIと同僚性との関連に着目してー

○殿村英嗣（関西大学大学院）

10：30～11：20

ティーチングを支えるコーチング：会話介入・GROWモデルの導入に向けて

○村上忠幸（京都教育大学）

○河村直子（八幡市立男山第三中学校）

○村上美香（姫路市立安室小学校）

○富永岳（自由研究教室 oranje）

11：20～12：00

全体討議

第25分科会

司会：安藤知子（上越教育大学）

9：30～10：00

特別支援教育における教師の「観」を対話的事例シナリオから読み解く試み

○大西宏明（福岡こども短期大学）

10：00～10：30

児童の参画による学校づくり

～富山市立奥田北小学校の事例から～

○ 笹田茂樹（元富山大学）

10：30～11：00

教員はどのようにしてミドルリーダーになるのか

○ 奥田智（日本大学）

11：00～11：30

授業省察ルーブリック評価における評価者間不一致の質的分析

一日・南ア評価者によるカテゴリー判断の違いに着目して－

○小野由美子（早稲田大学）

前田美子（大阪女学院大学）

11：30～12：00

全体討議

9月27日（日）9：30～12：00

K208 教室

第26分科会

司会：別惣淳二（兵庫教育大学）

9：30～10：00

イエナプランに基づく教師の学びを通じた意識の変容
—公立高校の総合的な探究の時間を事例に—

○横溝俊（兵庫教育大学大学院）

10：00～10：30

利己的要因を抱えつつ子供へと向かう教師のあり方
—実証的知見と教育哲学的考察との統合を通して—

○高橋智男（東北学院大学大学院）

10：30～11：00

—発表辞退—

11：00～11：30

全体討議

第27分科会

司会：山田 浩之（広島大学）

9：30～10：00

教育観の自覚を伴う深い省察－授業研究会における「沈黙」や「言い淀み」に着目して

○若林史也（信州大学）

10：00～10：30

授業研究会が若手教師のエンパワメントにつながるための支援の試み

○吉新智哉（宇都宮大学）

10：30～11：00

教育の変革を目指す支援型・参加型－リーダーシップの追究

○後藤郁子（お茶の水女子大学）

11：00～11：30

職員室における教員業務支援員の役割と認識

－「雑務」を通じた教師の多忙への応答に着目して

○高橋俊樹（名古屋大学大学院）

11：30～12：00

全体討議

第28分科会

司会：川口広美（広島大学）

9：30～10：00

実習生を指導する学校現場の教師教育者の専門的力量発達を支えるのは誰か
—日本とイングランドにおける調査からの報告—

○田中里佳（三重大学）

10：00～10：30

生成AIを活用した英語科教員養成における模擬授業支援システムの開発と実践的効果

○深田将揮（神戸学院大学）

10：30～11：20

児童生徒の日本語教育分野における教師教育者育成の可能性
—育成研修参加者の背景・経験による学びの違いに着目して—

○浜田麻里（京都教育大学）

○齋藤ひろみ（東京学芸大学）

○和泉元千春（奈良教育大学）

11：20～12：00

全体討議

第29分科会

司会：朝倉雅史（筑波大学）

9：30～10：00

現職教師と教職課程をつなぐ「脱能力主義」：履修学生の能力観の醸成と行使

○島田祥之介（名古屋市立山田高等学校）

10：00～10：30

都市型公立小学校における地域との連携・協働の実践研究

○菅谷泰尚（横浜市立能見台南小学校）

10：30～11：00

臨時的任用教員を対象とする研修プログラムの実践

—地方国立大学と地方公共団体との連携の一事例—

○上原秀一（宇都宮大学）

尾崎 承子（宇都宮大学）

11：00～12：00

全体討議

第30分科会

司会：久恒拓也（新見公立大学）

9：30～10：00

校長の主体性を発揮した学校経営を支える自己省察の内容分析

～コルトハーヘンのオニオンモデルを活用したコアリフレクション～

○岸本啓司（長岡京市立長岡第十小学校）

10：00～10：30

スウェーデンの基礎学校における教師の同僚的な学びの様相

○千野陽平（東京大学）

10：30～11：20

探究する学校のコミュニティづくり

○谷田邦子（広島市教育委員会）

○熊本貴文（広島市立戸山小中一貫教育校）

○米谷直剛（大阪市立住之江小学校）

村上忠幸（京都教育大学）

11：20～12：00

全体討議

国際交流部

英語による特設セッション

本学会は、1991年の設立以来、教育専門家の育成を趣旨として、様々な視野からの総合的な研究による、これからの教師教育の創造を目指した学会活動に取り組んできました。そして、研究発表を通じた国際交流の場として、“英語による特設セッション”を昨年度第一回として執り行い、本年度、引き続いて、第二回の実施となります。

尚、本セッションに限りまして、国内外から非会員の参加も認めており、会場は、共通言語として全編「英語」による発表・質疑応答となります。

Moderator : Ogisu Takayo (Tokyo University)

Yano Hiroshi (Otsuma Women's University)

9:30~10:00

How Does Dialogue Become Reflective?

○KITAYAMA, Yoshie (The University of Shimane Junior College)

10:00~10:30

Enhancing Global Competencies for Prospective Teachers - an action research on a preservice program with short-term tour from Tokyo to Hong Kong

○IWATA Yasuyuki (Tokyo Gakugei University)

10:30~11:00

Teacher Education in Botswana and Japan: A Comparative Analysis

○MOASETSO KATLEGO ONALENNA (Shimane University)

Toshitaka Fukami (Shimane University)

課題研究Ⅰ

実践研究を営む —教師教育の多様な当事者として—

【趣旨】

前回大会（宇都宮大会）時の課題研究Ⅰセッションでは、課題研究Ⅰ部会が構成に協力した本学会年報第34号の特集『『実践研究』を問う』をもとに、実践研究全般に関する問題、教師教育分野での実践研究に関する問題の両方にわたって、議論を行った。

実践研究全般に関する論点としては、例えば以下のようなものが出た。

実践の根拠を「施策で〇〇が推進されているので」というところに置く実践研究をどう考えるか。実践研究論文の定型化にどう対処するか、そもそも実践研究を「書く」ことの意義は何か。実践研究論文においては、どんな実践の何を書く必要があるのか。アカデミックな知との接点をどう考えるのか。教職大学院などにおいて実践研究論文の執筆を制度的に課すことに伴う問題をどう捉えるのか。

教師教育分野での実践研究に関する論点としては、例えば以下のようなものが出た。教師教育の担い手は、本来、大学教員、行政の担当者、学校の教師など多様であるにもかかわらず、教師教育の実践研究論文の書き手は大学教員に偏りがちではないか。教師教育分野の実践研究論文の読み手は誰で、彼らは何を期待して読んでいるのか、一方、書き手は何のために書いているのか。

今回のセッションでは、こうした議論をふまえて、あらためて教師教育の実践研究に焦点を合わせる。自身が教師教育実践の当事者でもある本部会メンバーが、教師教育の実践研究というものをどう捉えるのか。論文を書くことにとどまらない、読む、聞く、話すといった実践研究をめぐる営み全体を視野に入れて、それぞれから話題提供を行い、議論を行う。

【話題提供者】

大坂遊（周南公立大学）

大村龍太郎（早稲田大学）

園部友里恵（三重大学）

南浦涼介（広島大学）

八田幸恵（大阪教育大学）

渡辺貴裕（東京学芸大学） ※コーディネーター兼

課題研究Ⅱ

教師教育学の研究アプローチ

【趣旨】

教師教育学は研究アプローチの多様性を特徴としている。本課題研究は、この「マルチディシプリン」という本学会の特徴にあらためて焦点を当て、研究アプローチという観点から教師教育学の学術的な基盤を確認することを通して、今後の研究を展望し、さらなる研究の活性化をめざすことを目的として設定された。

これまでの研究活動を通して、本学会の学際性が明らかになるとともに、その構成員として、初等中等教育をはじめとする多様な教育の現場で日々の仕事に取り組んでいる「研究的実践者」や、大学等に身を置きながら実践の現場と密に関わる「実践的研究者」が集まっていること自体の意義や重要性が明確になってきた。こうした多様な構成員による研究ニーズや、越境的な研究活動・実践活動の実態に着目し、教師教育学の研究アプローチに関する「見取り図」を描くことを通して、本学会ならではのユニークな学術的特徴を明らかにするとともに、今後の研究のあり方について考察を深めることを目標として、質問紙調査、インタビュー調査を含めた研究活動を三年間にわたって推進してきた。

第36回研究大会においては、本課題研究の総括として、教師教育学の現状と今後の展望について、教師教育学の研究アプローチに関する「見取り図」を提案するとともに、参加者との意見交換を行いたい。

<話題提供者>

鹿毛雅治（慶應義塾大学）／木原俊行（四天王寺大学）／須田将司（学習院大学）／高谷哲也（鹿児島大学）／長谷川哲也（岐阜大学）／羽野ゆつ子（大阪成蹊大学）／三品陽平（愛知県立芸術大学）

<指定討論者>

勝野正章（東京大学）
金井達亮（かえつ有明中学高等学校）

課題研究Ⅲ

「国際比較でみた〈教員不足〉問題の総括」

【趣旨】

課題研究Ⅲでは、〈教員不足（teacher shortage）〉問題に焦点化し第11期から引き継いで議論と発表報告を重ねてきた。一昨年度は、アメリカとドイツを事例に、「〈入＝入職〉と〈出＝離職〉」の枠組みで時間軸（取り扱いの視線：長期＝慢性的 ⇄ 短期＝喫緊的）に絡めて問題の整理と分析を提起した。また、昨年度はオーストラリアと中国を事例に、〈地域的文脈〉から読み解くことを目指し、採用・入職、「異動」を視野に、日本の北海道を参照の媒介として、広域行政下での教員不足問題を議論した。

今年度は、これまでの議論を、交差し、相互参照の解像度を上げて、総合的に扱うことを目指す。3年間の課題研究部会のまとめとして、2026年時点での「教員不足」問題／言説を、国際比較の視点から整理する。

※登壇者は、部会メンバーで構成する予定である。

若手研究者育成支援部

若手研究者の葛藤を語り合う —その試行錯誤をコミュニティの知に—

【趣旨】

大学院生や若手研究者、現職教員による実践研究は、研究テーマや方法の選択、研究環境、時間的制約など様々な要因によって停滞や行き詰まりを経験することが少なくない。特に教師教育研究の領域では、教育実践と研究を往還しながら研究を進める必要があるため、研究設計や分析の段階で個人だけでは解決が難しい問題に直面することが多い。しかし、研究上の悩みや研究過程の試行錯誤を具体的に共有し、相互に助言し合う場をもつことは容易ではない。

そこで本企画では、若手研究者自身が現在直面している研究上の課題や葛藤を出発点として共有し、それを手がかりに参加者同士が対話的に検討する場を設ける。具体的には、若手研究者による短い話題提供（20分程度）を出発点として、その後の時間を個人探究、グループ対話に充て、参加者それぞれが現在抱えている研究の課題を持ち寄り、互いの経験や視点からアイディアを出し合うことで、研究を前進させる具体的なヒントを得ることを目指す。

また、本企画は大学院生・若手研究者のみならず、教師教育者として若手を指導する立場の研究者にも参加を呼びかける。若手研究者の実際の困難や研究過程を共有することで、教師教育研究コミュニティにおける世代間の対話を促進し、研究文化の継承と支援のあり方を考える契機とする。

【対象】

- ・大学院生
- ・現職教員で研究を行っている方やこれから始めようとされている方
- ・アーリーキャリア研究者
- ・若手研究者の指導や支援に関わる大学教員・研究者

【企画の特徴】

本企画は、以下の点を特徴とする。

- ・若手研究者自身の研究過程の課題を出発点とする対話型企画
- ・研究テーマ・方法・研究環境など多様な行き詰まりを共有する場の提供
- ・世代や立場を越えた研究コミュニティ形成の促進

当日の構成（90分） 9月27日（日）16時15分～17時45分

1. 趣旨説明（5分）

若手研究者支援部会より、本企画の目的と進行方法を説明する。

2. 話題提供（約20分）

話題提供者：佐々木恵美子 会員

（聖隷クリストファーグローバルスクール教諭・筑波大学大学院博士課程院生）

3. グループ対話（45分）：研究を進める上で解消したいことについて助言を得る。

0) ワークの説明、グループ編成

1) 参加者を小グループ（4～6名程度）に分け、対話を行う。

※参加者には、事前の参加申込時に、下記の例にあるような悩みや疑問について記入して頂き、当日のグループワークで共有する。

- ・研究テーマやテーマ設定、問いの形成に関する困難
- ・研究の方法論や分析の進め方、理論枠組に係る困難
- ・フィールド研究や実践研究における方法上の課題（研究倫理を含む）
- ・教員、研究者（大学院生）としての業務と研究の両立について
- ・研究時間の確保やワークライフバランスの実現

2) グループでは互いの経験や視点から研究を前進させるアイデアや助言を出し合う。

4. 全体共有とまとめ（20分）

- ・各グループの議論や気づきを全体で共有し、研究を進めるための視点を整理する。
- ・最後に部会より総括コメントとごあいさつ。

【期待される成果、企画意図】

- ・若手研究者が抱える研究上の課題の可視化
- ・研究コミュニティにおける横のネットワーク形成
- ・教師教育研究における実践研究の支援のあり方の検討
- ・大会後以降の研究計画の具体化と積極的な研究活動の応援、後押し

※グループワークを行うため、参加希望の方は下記の参加フォームから参加登録の手続きをお願いします。なお、当日参加も歓迎します。

<https://forms.gle/tHvLE7W7HmtnoTrFA>

第6回研究倫理学習会

教師教育研究の多様性と研究倫理

【趣旨】

教師教育研究はマルチディシプリナリーな性格を有し、本学会に所属する会員の社会的・学問的背景もじつに幅広い。教師教育研究の広がりや深さを担保するこうした特長があるからこそ、学会として研究倫理をさまざまな角度から捉える必要があり、それによって会員個々が当たり前としてきた意識や習慣を見直す契機にもなっていく。さらに、教師教育研究における研究倫理は、単なる不正防止や手続き上の規則としてではなく、研究のあり方そのものと深く結びついた課題として捉えるべきである。研究の目的や方法、研究協力者との関係、成果の公表や活用のあり方などが多様であり、そこには異なる価値や前提が反映されている。だからこそ、研究倫理を考えるうえでは、自らが拠って立つ価値や前提に目を向け、その意味を問い直していくことが重要である。

第12期研究倫理委員会は、専門分野や背景の異なる7名のメンバーによって構成され、この多様性を生かしながら研究倫理をめぐる学習と対話の場づくりに取り組んできた。今期を締めくくる第6回学習会では、委員会メンバーが自身の専門性や経験をもとに、教師教育研究における研究倫理の課題や可能性について話題提供を行う。

さらに本学習会では、それぞれの視点や関心から発せられる「声」を持ち寄り、その異同を確かめながら対話を深めていく。教師教育研究における研究倫理は、単一の価値観や方法論で語り尽くせるものではない。多様な立場や研究アプローチが対等に響き合う「広場」として学習会を位置づけ、参加者相互の対話を通して研究を捉える視座を広げながら、教師教育研究にふさわしい研究倫理のあり方をともに模索する機会としたい。

【コーディネーター】

長谷川 哲也（岐阜大学）

【話題提供者】

金馬 国晴（横浜国立大学）

菊地原 守（鹿屋体育大学）

瀧本 知加（京都府立大学）

半澤 礼之（北海道教育大学釧路校）

村井 大介（静岡大学）

紅林 伸幸（常葉大学）

ラウンドテーブル

①日本の教師教育の構造的転換を難しくしているのは何かージェンダーの視点から

(L107教室)

【企画者・登壇者】

企画者 深見俊崇 島根大学

司会者 香川奈緒美 島根大学

報告者 森久佳 京都女子大学

共同研究者 百合田真樹人 教職員支援機構

【概要】

社会の変化に伴い新たな教育課題が登場するたびに、日本の教師教育では、社会的・政策的な関心が寄せられてきた。その一方で、既存の枠組みを前提にした個別的対応に留まり、そうした対応の限界は十分検討されてこなかった。具体的には、一斉授業や管理行政、長時間労働といった「システム」が温存されたまま、新たな課題への対応が個々の教員の意識向上等にすり替わり、現場のタスクが増えて形骸化するという悪循環に陥ってきた。

本ラウンドテーブルでは、教師教育をめぐる諸課題について、学校文化やその構造に埋め込まれたジェンダー秩序との観点から捉え直す。学校の日常に潜む隠れたカリキュラムや既存の価値構造が再生産されるメカニズムを、批判と研究の対象として意識化し、変革を可能にする視点を確認する。その上で、こうした課題をジェンダーの視点から再検討することで、教師教育の研究と実践における問いの射程を拡張し、従来分断されがちであった研究領域間の有機的な対話や研究ネットワークの形成につなぐことを目指す。

②学校への障害の社会モデルの浸透に向けた教師教育の現状と課題

ーインクルーシブな学校づくり研究会の取り組みからー

(L109教室)

【企画者・登壇者】

平林ルミ 東京大学

飯野由里子 東京大学

末永三枝 渋谷区立西原小学校

【概要】

学習指導要領に障害の社会モデルが導入されることが決定される中、東京大学バリアフリー教育開発研究センターは2021年度より、小中学校教員とともに「インクルーシブな学校づくり研究会」を立ち上げ、学校現場における社会モデルの理解と実践に取り組んできた。

本ラウンドテーブルでは、まず同研究会のこれまでの具体的な活動内容を報告する。次に、研究会の参考校である公立小学校における、学校全体で社会モデルに基づくインクルーシブな学校づくりに取り組む実践事例を紹介する。これらの報告をふまえ、教師とともに学校への社会モデルの浸透を進めるうえで直面する課題について、教師教育の観点からフロアとともにディスカッションを行う。

③ 教師養成と子ども文化ーそして遊べる教師がいなくなった①

～架け橋期のカリキュラム開発における大学教員の支援～

(L202教室)

【企画者・登壇者】

時田詠子 群馬医療福祉大学
中島眞吾 中部大学
田中卓也 育英大学
西田明史 中村学園大学
中塚健一 小田原短期大学

【概要】

今年度はメインタイトルのうち教師養成に力点を置き、サブテーマを設けた。令和5年度幼児教育実態調査より、市町村での幼保小のカリキュラムの接続状況は「授業、行事、研究会等の交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成等を行われていない」の割合が48.9%を占め最も多かった。現在、既存のアプローチカリキュラム(=AC)やスタートカリキュラム(=SC)を補完する架け橋期のカリキュラム(=KC)の編成等が、幼児教育施設と小学校との協働作業として取り組まれている。

ACやSC編成等に比してKC編成は、より教育委員会や大学教員による人的架け橋及び支援が必要である。本ラウンドテーブルでは、KC編成での「大学教員の支援」に焦点を当て発表を行う。大学教員の支援として、①現場への専門知の提供、②幼小のカリキュラム協働編成、③未来のKC編成者となる学生の力量形成等の発表を予定している。参加者の方々との忌憚のない意見交流や活発なディスカッションが行われることを期待したい。

④教師・教師教育者の専門性の探究：「セルフスタディ実践のひろば」研修会報告(2)

(L206教室)

【企画者・登壇者】

齋藤眞宏 旭川市立大学
大西慎也 神戸学院大学
岡村美由規 広島大学
茂木智央 新渡戸文化小学校

【概要】

セルフスタディは「教えることを教えること」についての研究・研究方法論として、主に英

語圏の教師教育者の間で発展してきた。日本では2015年に紹介され、この10年間に翻訳書や学術書も刊行されてきた。2024年9月には「セルフスタディ実践のひろば」という研究・実践の場を有志が立ち上げ、これまで月一回オンライン上で学術・実践交流を行ってきた。今年も昨年に続き、メンバーらが第2回研修会を8月に対面実施する。セルフスタディの実践上の課題を率直に議論し、かつ、実践事例についてポスター発表を行う予定である。今回は教師・教師教育者のみならず、対人専門職の方の実践発表も行われる。2年目となる本ラウンドテーブルでは、8月の対面会において浮上したセルフスタディの研究・研究方法論としての特徴と困難、さらにクリティカルフレンドの在り方について議論を深める。

協賛企業広告

専門職として成長し続ける 教師になるために

—教職詳説—

山崎 準二・紅林 伸幸 編著

A5判並製 / 216頁
定価 2,420円

重版出来



主権者を育てる社会科の授業

—社会と出会う・社会を知る・社会を生きる—

脇坂 圭悟・佐藤 学 著

四六判並製 / 192頁
定価 2,090円



〈子どもの社会参画〉を問う 環境教育／ESD

小玉 敏也 著

A5判並製 / 200頁
定価 2,420円

新刊



授業スタンダード —その展開と教師の反応—

澤田 俊也 著

A5判並製 / 146頁
定価 2,200円



教師養成に関する考察

エドゥアルト・シュプラランガー 著

黒澤 英典 訳

四六判並製 / 112頁
予価 1,650円



児童文化としての動物園教育

—一到津・上野にみる歴史・実践・未来—

原賀 いずみ 著

A5判並製 / 196頁
定価 2,420円

新刊



DX時代の人づくりと学び

降旗 信一・金馬 国晴・

加納 寛子・佐々木 豊志 編著

A5判並製 / 160頁
定価 2,200円

重版出来



教師のひと言の重さ

—死刑囚の魂の回心—

黒澤 英典 著

四六判並製 / 144頁
定価 1,650円



持続可能な社会をつくる 幼児期のESD論

—子どもと環境—

降旗 信一・菊池 稔 編著

A5判並製 / 160頁
定価 2,200円

重版出来



人間と「言葉」を
結ぶ出版



にんげん どう

人言洞〈NingenDo LLC〉 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下6-5-3

mail info@ningendo.net

website

https://www.ningendo.net



公立も私学も教育委員会も、高校教育のことは「月刊高校教育」で!

月刊高校教育

編集協力/
全国高等学校長協会、
文部科学省教育課程課

高校教育界の最新情報を毎月お届けします。

特集 2026年度 ※変更になる場合があります。予めご了承ください。

- 9月号 高校と大学の“つながり”を考える
- 10月号 このままで大丈夫!? キャリア教育・進路指導
- 11月号 新学習指導要領の全貌
- 12月号 再考、文系・理系
- 1月号 創刊60年を迎えて
- 2月号 高校改革の進捗状況
- 3月号 専門高校、バージョンアップ

※以下、随時、高校教育に関する
旬のトピックスを扱います。

2026年度からの新連載

- 「高校・働き方改革のリアル」野村駿
- 「校長発 高校改革への提言」
- 「探究する教育社会学」松岡亮二・中村高康
- 「高校の女性管理職を増やそう!」女性校長について考える会

ほか、高校に必須の最新情報・実践を取り扱う企画が満載です。

好評連載

- 「おとなの探究基礎」荒瀬克己
- 「悲鳴を上げる学校」小野田正利
- 「探究を探究する」廣瀬志保
- 「ちょっと拝見 学校訪問」「巻頭インタビュー」



新年度からの
学校経営戦略

2026年度
の誌代

●本誌 / 定価1,100円(本体1,000円+税)
●増刊号(年2回) / 定価1,045円(本体950円+税)
年間誌代 定価15,290円(本体13,900円+税)

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。

学事出版

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX03-0120-655-514

多様性を志向する教師教育

各国の文脈に根ざした多彩な姿をひもとく

佐藤仁、伊藤亜希子 編著

◎4950円

世界各国において児童生徒の多様性が高まっているなか、そうした状況を前提とした学校で働く教師の養成や研修が求められている。世界8か国の比較分析をとおして、多様性のさまざまな次元から、その傾向を探るとともに、日本における多様性を志向する教師教育の進展にむけたヒントを探る。



教科横断的カリキュラムデザイン

新しい教育課程へ向けた「学びの再定義」

松尾知明 著

◎3300円

予測不可能な未来を前に、次世代の教育とどう向き合えばよいのか。先進諸国の事例を踏まえ、今後の教育のカギとなる「教科横断的なカリキュラム」づくりを解説する。新しい学習指導要領の公布を控えた今、これからの「学び」のあり方を問い直す一冊。



異文化間教育の再創造

新たな視点・枠組みから問い直す

佐藤節衛 編著

◎2970円

教育への異文化間アプローチ

理論から実践へ

アデルジャリル・アッカリ、ミリアム・ラドワン 著

渋谷恵、見世千賀子、中山あおい、島内恵、菊地かおり 訳

◎3520円

若者支援政策の現在地

こども家庭庁／こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか

岡部茜、御旅屋達、原未来 編著

◎2970円

光州5・18民主化運動を学ぶ

韓国における歴史教育の実践

光州広域市教育庁、5・18記念財団 企画 武井一 訳 金鉉燭 監訳

◎2750円

教科書が伝える日本統治と戦争の記憶

ミクロネシアと周辺地域の歴史教育比較

玉井昇 編著

◎3300円

大学リスキリング教育

高等教育が拓くキャリアの持続可能性

新居田久美子 著

◎2860円

つまらない中学をどう変えるか

フランス発 フレネ教育が拓く子どもの未来

片岡洋子、佐藤和夫、佐藤隆 編著

◎2750円

多文化保育のエスノグラフィー

文化的多様性の包摂と公正さをめざして

長江侑紀 著

◎4400円

外国人の子ども白書【第3版】

権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から

荒牧重人、榎井緑、江原裕美、小島祥美、志水宏吉、

西口里紗、南野奈津子、宮島喬、山野良一 編

◎2970円

教員環境の国際比較

OECD国際教員指導環境調査(TALIS)2024報告書

国立教育政策研究所 編

◎4950円

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

URL: <https://www.akashi.co.jp/>
E-mail: eigyo@akashi.co.jp

*図書目録送呈
*価格税込

教育の「いま」をつかむために。時事通信出版局の本

教員をめざす人、学校管理職、 教職員、教育行政職員の必携書

現行学習指導要領が告示されて8年が経ち、あと数年のうちに次期学習指導要領の改訂が行われる。

この間、コロナ禍を経てGIGAスクール構想が加速度的に実現し、学校のあり方は大きく変わった。これまでの教育の制度やマネジメントの仕組みは何かどう変わったのか、あるいは変わらない部分は何か。

「学校のカリキュラム・マネジメント」「GIGAスクール構想の実現と教育DXの推進」など、時代の変化に合わせた新章を加え、詳しく解説する。

改訂新版

教育の制度と学校のマネジメント

編：加藤崇英 臼井智美

著：高野貴大 吉田武大 福島正行 照屋翔大

田中真秀 張 信愛 石崎ちひろ 川口有美子 吉田尚史

●A5版・212頁 定価：本体2,000円＋税 ISBN：978-4-7887-2016-9



時事通信出版局

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F
tel.03-5565-2155 fax.03-5565-2168 <https://bookpub.jiji.com>

日本教師教育学会様 第36回研究大会の開催おめでとうございます。

学会運営のすべてを、 一つの窓口で。

事務局業務・会員管理システム・ホームページ運営を、当社が一貫してお引き受けします。窓口が一つになることで、情報の二重管理や連絡の行き違いがなくなります。日々の小さなお困り事にも、一つずつ丁寧に対応します。

日本教師教育学会様の
事務局業務と会員管理システム運用

8年以上 継続

大会サイト運営・オンライン大会システム
オンライン／オフラインの
ハイブリッド同時配信

5学会以上 実績

01

事務局業務の受託

入退会・会費徴収、大会や理事会の運営事務、各種問い合わせ対応まで。

02

会員管理システム

会員情報と会費、名簿・原稿管理を一元化。学会の運用に合わせて構築します。

03

ホームページ運営

公式サイトの制作から日々の更新、J-STAGE等の電子化支援まで。



EPOCH-NET
株式会社エポック・ネット

〒622-0443 京都府船井郡京丹波町東又尾笹6-2
TEL 070-3238-3774 info@epochworks.jp



教育課程の探究

—理論と実践からカリキュラムを問い続ける

●木原俊行・島田希 編著

定価2,530円

教育課程とカリキュラムを体系的に整理。キャリア教育、カリキュラム・マネジメント等の教育課題を踏まえ、理論と実践の視点から探究する。

大学における教員養成の未来

—「グランドデザイン」の提案 定価2,640円

●日本教師教育学会 監修

鹿毛雅治・藤野正幸・牛渡淳・岩田康之・浜田博文 編著

未来に生きる子どもたちの学校教育を担う教師のあり方を学術的に検討し、日本独自の教員養成モデルを提案。

ユネスコ・教育を再考する

—グローバル時代の参照軸

●日本教師教育学会第10期国際研究交流部

百合田真樹・矢野博之 編訳著

定価2,200円

「Rethinking Education」特設の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の基盤的価値を読み解く。重要語句や概念群の解説を加え紹介。

「令和の日本型」教育と教師

—新たな教師の学びを考える

定価1,100円

●日本教師教育学会 編

「令和の教師教育改革」に関する学習会とシンポジウムの内容をまとめたブックレット。教師のあり方より深い検討のために。

教師教育研究ハンドブック <電子版>

●日本教師教育学会 編 定価6,600円

日本教師教育学会の25年間の研究の蓄積と最新の知見をベースに教師教育の研究と実践と政策に関する概念・用語を包括的に提示。

※ご購入方法等、詳しくは右記QRコードもしくは弊社WEBサイト(下記アドレス)(<https://www.gakubunsha.com/>)から「教師教育研究ハンドブック」を検索

多様な「学ぶ」が生まれる「学校」

—子ども一人ひとりがいきいき包摂のかたち 定価2,420円

●加瀬進 監修/入江優子・菊山智美・田嶋大樹 編著

不登校支援という枠を超え、すべての子どもの多様な「学ぶ」をいかに保障するかという視点から、学校の可能性・包摂性を見つめ直す。

探究学習×教育DX時代の学校改革

—かすみがうら市発 ミライを創る小中一貫9年教育

●かすみがうら市教育委員会 監修 定価2,420円

打越正貴・佐藤理・今泉友里・宮本浩紀 編著

教育に携わるすべての人に、子どもたちの「よりよい学び」を実現するための視点や実践のヒントを届ける1冊。

学びをつくる問いと対話のデザイン

—探究・研修・大人の学び

定価2,310円

●福島創太 著

「正解のない問題」があふれる時代に、どんな学びを届けるべきか？探究学習やワークショップ形式の研修を設計していくための実践書。

校長のリーダーシップ

●浜田博文・源詩英広 編著 定価3,300円

校長のリーダーシップ発揮を支え、促すための制度的・組織的条件の在り方を追究し、そのための条件整備を提示。

「大学における教員養成」の日本的構造

—「教育学部」をめぐる布置関係の展開

定価3,410円

●岩田康之 著

教員養成に関わる諸アクターの力関係は「布置関係」に着目し、主に歴史的な視角と国際比較的な視角の双方から分析。

パワー・オブ・リフレクション

—教師教育と専門家養成に必要なこと

●フレット・コルトハーゲン&エレン・ナイツェン 著

山辺恵理子・坂田哲人 監訳/他訳 定価3,520円

コルトハーゲンの「リフレクション」方法をわかりやすく紹介するガイドブックがこれに付属！ 価値の高い体系的なリフレクションとは。

メンターとしての経験

—若手教師支援という営みの複雑さ

●島田希 著

定価2,970円

若手教師支援の最前線に立つメンターの難しさ、葛藤、工夫、文脈を通じて得られる気づきを、質的データに基づき描き出す。

支援ニーズを抱える子どもと向き合う教師の「判断」

—エスノグラフィーでよみとく教師の専門性

●小田部予 著

定価4,400円

「学校」の日常は、どのようにして維持されているのだろうか。教師の実践や「先生」の判断を探究したエスノグラフィー。

SDGsと学校教育

総合的な学習／探究の時間とESD

—持続可能な社会の創り手を育む

●小玉敏也・金馬国晴・岩本泰 編著

定価2,640円

「総合的な学習／探究の時間」授業実践の最前線を、多形でリアルな学校現場での事例と探究の方法論の両面からわかりやすく紹介。

教職のための教育社会学

—教師にできることを探る

●片山悠樹・久保田真功・伊藤秀樹 編著

定価2,640円

教育社会学の知見を教員養成へと結び直し、社会化・教育格差・多様性・不登校・移民・教師の働き方といった具体的課題に向き合う。

「だれが教師をめざすのか」の

教育社会学 —「観察による徒弟制」と教員養成

●太田拓紀 著

定価2,970円

「だれが教師をめざすのか」をテーマに、現代の若者が教職を選択し、養成段階にいたるまでの過程とそこに潜む課題を検証する。

教員志望学生の不安や悩みを

どう理解するか —現代アメリカにおける支援実践から

●太田知実 著

定価3,740円

不安や悩みを和らげ、良い教員としてどう育てるか。多文化教育を基盤とする、現代アメリカの動向を手がかりに向き合う。

教師のためのセルフスタディ入門

—協働的な問いによる実践の改善

●アナスタシア・P・サマラス 著 武田信子 監訳

定価4,950円

セルフスタディ翻訳プロジェクトチーム 訳

教師並びに教師教育者のためのセルフスタディの指南書。世界的な教師教育者による方法論「セルフスタディ」解説書がついに邦訳。

セルフスタディを実践する

—教師教育者による研究と専門性開発のために

●齋藤真宏・大坂遊・渡邊巧・草原和博 編著

定価3,630円

セルフスタディで、教師教育を拓く日本発解説書。研究開発、広島大学教育ビジョン研究センターを拠点に積み重ねられてきた研究成果をここに公開。

「省察」を問い直す

—教員養成の理論と実践の検討

●山崎準二・高野和子・浜田博文 編

定価3,080円

大学における教員養成の「省察」意識を相対化し、不可視化された問題状況を明らかにする。今一度、「省察」を問い直す。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
TEL 03-3715-1501 FAX 03-3715-2012

Email eigyogakubunsha.com
URL <https://www.gakubunsha.com/>

株式会社
学文社



日本教師教育学会第36回研究大会プログラム

[発行者] 日本教師教育学会第36回研究大会実行委員会

委員長 丸山恭司(広島大学)

副委員長 草原和博(広島大学)

大会事務局 ※大会実行委員を兼ねる

岡村美由規(広島大学), 南浦涼介(広島大学), 久保研二(広島大学・大会事務局長),
中井悠加(広島大学), 渡邊巧(広島大学), 米沢崇(広島大学)

大会実行委員

曾余田浩史(広島大学), 山田浩之(広島大学), 伊藤真(広島大学), 川口広美(広島大学),
深谷達史(広島大学), 牧貴愛(広島大学)

[発行日] 2026年8月21日

[連絡先 大会実行委員会] 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学教育学部

日本教師教育学会第36回研究大会実行委員会事務局

URL: <https://36th.jsste.jp/>

[連絡先 学会事務局] 〒277-0941 千葉県柏市高柳1674-4 日本教師教育学会事務局

TEL: 050-5806-6606 Email: office@jsste.jp